

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790200059		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	グループホーム「健康倶楽部家 鶴成館」		
所在地	福島県会津若松市門田町飯寺字村東305-6		
自己評価作成日	平成27年11月28日	評価結果市町村受理日	平成28年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・オープンから8年が経ち、長く入所されている方は重度化が進んでいますがご本人・ご家族が安心して過ごせるよう支援しています。 ・今年は新規の方を2名お迎えして、ご本人の意向に沿いながら出来ること・やりたいことが行えるように支援を行っています。 ・職員もほぼ変わらず勤めているため、ご本人・ご家族と職員の間で良い信頼関係も築けていると思います。毎月写真入りのお便りをお送りして近況をお知らせし、ご家族が遠方の方も多いので大変喜ばれています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 法人の研修体系が確立しており、年間研修計画に基づき職能別・職位別・目的別・テーマ別等多岐にわたる研修会を実施し、職員の人材育成を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。 2. 利用者、家族アンケートの実施や毎月お客様会議を開催し意向や意見を把握し、コミュニケーションを大切にしながら利用者に寄り添った支援に努めている。 3. 地域との交流を大切にし、近隣のゴミ拾いや盆踊り、文化祭等に参加し、事業所の夏祭りやボランティアの受け入れなど相互交流が行われ、利用者が地域の方との関わりを持ちながら生活出来るよう支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を作り、見えるところに掲示し共有し実践に繋げ、その方らしく生活出来るように支援している。	事業所理念を玄関と事務所に掲示し、管理者と職員はミーティングやケアの振り返りを通し、理念が実践の中に活かされているかを意識しながら支援している。また、新規職員には管理者から事業所理念について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に行ったり、地区の盆踊りや文化祭へ作品を出品したり、事業所で作った笹巻や餅を配ったり、事業所の行事(夏祭りなど)などに参加して頂いたり交流に努めている。また、クリーンアップ作戦を企画し実施している。	地域の自治会に加入し、盆踊りや文化祭への参加と事業所の夏祭りに地域住民の参加を得ながら交流を深めている。また、利用者との近隣のゴミ拾いや、お世話になっている方へ笹巻や餅を配ったり、高校生ボランティア等各種のボランティアを受け入れ、地区での活動や地域住民との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りなど交流の場を設け、地域の方や子供達に認知症の理解をして頂けるよう機会を作っている。高校生のボランティア部の受け入れも行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況、行事、近況、外部評価の報告を行い、意見や情報を出してもらいサービスの向上に努めている。	運営推進会議は定期的開催されている。会議では事業所の状況報告や行事、外部評価等について意見を頂きサービスの向上に活かしている。具体的な一例として、委員から頂いた意見をもとに地域の方が集えるサロンの開設等が挙げられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員には運営推進会議に参加してもらい、管理者は包括ケア会議に出席し協力関係を築いている。市からは大雨や台風時など被害はないかの連絡を頂いたり、分からないことがあれば聞いたりしている。また市から依頼の学生・高齢者の見学を受け入れ協力関係を築いている。	市の担当者とは日頃から連携を図り、市からの依頼で学生や高齢者の事業所見学を受け入れたりして協力関係を築くよう取り組んでいる。また、市担当者からは大雨や台風時には被害状況の確認連絡がされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、職員会議にて勉強会を行い日々のケアの中で身体拘束がないか理解を深め振り返りをしている。また玄関は夜間のみ施錠している。	管理者と職員は、研修会や勉強会を通して身体拘束の内容とその弊害を理解し、日々のケア場面や会議の中で確認しながら身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいる。玄関は夜間だけの施錠としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加したり、職員会議にて勉強会を行い理解を図っている。また職員同士も関わり方に問題がないか注意を払って声かけしあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての勉強会を行い、現在、制度を活用されている方もいらっしゃる。理解した上で支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項・料金についてきちんと説明し、理解をしていただいた上で契約していただいている。改定時や解約時も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回法人としてお客様アンケートを実施したり、月に1回お客様会議を行い要望を行事等へ反映している。面会時などに意見や要望などを気軽にだして頂けるよう努めサービスに反映している。また、事業所に意見箱の設置もしている。	お客様アンケートや毎月お客様会議を開催し、利用者、家族の意見や要望を表せる機会を設けている。さらに、日々の生活の中や家族訪問時等に気軽に意見や要望を出せる雰囲気作りに努め、出された意見等を職員で検討しながら運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は事業所会議や日常の申し送り時、面接を通して意見をきき対応している。必要時は法人の上司に報告し対応している。	管理者は職員会議やミーティング等で職員の意見、提案を聞く機会を設け、それを運営に反映するよう努めている。また、日常業務の中での相談や年2回の人事評価の面接の中で職員の意見、提案を法人として吸い上げ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の業務目標を設定し努力や実績を確認している。勤務表作成については希望休や体調など随時職員と話し合いながら作成している。また運営者は管理者と随時面接しながら職員の状況を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での階層別研修や湖山カレッジ、認知症グループホーム協議会の研修に参加できる機会を設け、知識向上やケアを見直す機会になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括支援センターで開催される包括ケア会議に出席したり、認知症グループホーム協議会の管理者会議に出席し研修の企画を行い、職員の交流や質の向上に積極的に取り組んでいる。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は生活に慣れるまで不安に思える事が多いので、安心して生活ができるよう訴えを傾聴したり、要望等があった際はご家族に連絡をしたりし支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みに来た段階で今困っている事、不安なことを傾聴し、不安を受け止め関係性が図れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にご本人の状況やご家族の抱える悩みについて伺い、今必要な支援をアセスメントやカンファレンスで検討しサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは本人と職員が一緒に行い職員も支えてもらいながら生活している。本人の喜びや悲しみ等共有出来るよう十分なコミュニケーションに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況をお話したり、お便りで日々の様子をお伝えしたり、不穏の時は協力を仰いだりし、情報の共有を図りご家族様との良好な関係が維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が面会に来てくださったり、一緒に外出されたり、友人に会いに隣の事業所に出かけたりと今までのつながりを継続出来るよう支援している。	友人や知人が気軽に訪ねて来て頂ける雰囲気づくりに努め、知人の訪問や利用者と一緒に外出できるよう支援している。また、隣接する同法人事業所を利用している知人に会ったり、馴染みの理美容院に出かけたり家族との関係が維持できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性などを把握し席を決めたり、トラブルにならないように気を配り、必要時は職員が間に入ったりしている。おやつの際一人になってしまう時は他のテーブルに移動し孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方には年賀状を出したり、入院になった方には職員全員で千羽鶴を作りお見舞いに伺っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや月に1回お客様会議を行い希望や要望の把握に努めている。意思表示が困難な方には表情などを見て把握に努めている。	利用者一人ひとりの思いや意向を、日々の生活の関わりの中やお客様会議の中で把握するよう努めている。また、困難な場合は利用者の表情や仕草、行動から推し量り、家族からの情報を参考にしながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様これまでの生活歴、環境等を伺い把握に努め、同じく出来ることについては対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動や気持ちの変化など観察したことを日々の記録に残し、申し送りをしっかり行い職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでご本人やご家族の意向をもとに話し合いをし、現状に即したケアプランを作成している。	利用者の担当制を採っており、介護計画はアセスメント、モニタリングを繰り返しながら、3ヶ月毎に見直しを実施している。また、モニタリングは担当者がサービスの実施状況をまとめ利用者や家族の意向を確認しながら職員全員で意見を出し合い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などを記録し、申し送りを行う事で情報共有に努め、それに基づきカンファレンスでの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様対応の病院受診に本人の状態やご家族様の希望に応じて同行したり、買物の希望や家に帰りたいという訴えがあった際、他事業所のお客様との交流など出来るだけ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて千羽鶴を広島や長崎に送ったり、地域の行事(盆踊り・文化祭)に参加したり、慰問ボランティアを受け入れたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人がそれまで受診されていた病院が希望のかかりつけ医になっており、通院介助の方には通院後報告を行い、家族対応の方は受診の際主治医に伝えてほしいことはお伝えし必要に応じて受診同行をしたりしている。	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診できる。付き添いは家族が行い、状況により職員が受診支援し、医師、家族、事業所との情報共有も適切に行われている。緊急時の受診もスムーズにできる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々体調の変化に気を配り、異常が見られた際はその都度看護師・管理者に報告し、受診が必要な際には対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院の看護師やMSWと連絡を取り合い、また面会に行き状態を確認したりし、早期に退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度看取りに関する指針の説明を行い、随時、意向確認書にて意向を確認している。重度化してきている方もおられる為、事業所としてできること、できないことを踏まえ、ご本人様やご家族様が安心した対応が出来るようにチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合や終末期の対応指針について、本人、家族の同意を得るとともに、状況変化した場合は、医師、本人、家族や関係者と話し合い、方針を共有し適切な支援が行われるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応やAEDの勉強会、普通救命講習に参加したりし実践力を身につけている。緊急時は小規模や隣の鶴成館ショートと連携を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回は避難訓練を行ない、地域消防大会の参加などにより災害に対する意識付けを図っている。また災害時の地域の協力体制についても声掛けし協力をお願いしている。	毎月、夜間の火災を想定した避難訓練を行ない、運営推進会議委員が参加した訓練も行われ、同一建物の小規模多機能型事業所職員が応援する体制もある。消火器やAED使用方法、消防署や職員への通報訓練も行われ、災害備蓄も常備されている。	消防署の指導を受け、火災だけでなく、地震、風水害を想定した避難訓練や災害時に地域住民の応援協力が得られる体制を築くことも検討して欲しい。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格を理解し、誇りやプライバシーを損ねることがないように配慮した声かけや対応を心がけている。居室やトイレの入室の際もノックや声かけをきちんと行っている。	管理者は各種会議で誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を周知するとともに、個人情報適切に使用し管理出来るよう研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中での訴えや、月に1回のお客様会議で要望をきき実施できるように支援している。おやつ時などは飲みたいものを聞いて好きなものを飲んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	読書やお客様同士の交流など、お客様の時間を大切に、ご自分のペースで生活できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は必ず整容し、入浴や外出の際など自立のお客様は服を選んで頂き、介助の方も同じような服装にならないように選び身だしなみに心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事作りも一緒に行い、誕生日や行事の際にはお客様を食べたい物をメニューに取り入れ、食事の際は各テーブルに職員がつき会話しながら楽しく食事出来るように支援している。	毎月のお客様会議や食事時の会話、摂食状況から好みや嗜好を把握し献立に反映させたり、誕生日には希望に沿った食事を提供している。食事に関する下準備、盛りつけ、下膳、テーブル拭き等可能な作業を職員と一緒に、楽しく食事出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態で提供し、一人ひとりの体の状態に応じて量を増やしたり、減らしたりして提供している。食欲がない方には食べれるときに食べてもらったり、本人が好きな物で代替して食べて頂けるような工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には声かけ促し、必要な方には介助にて毎食後口腔ケアを行なっている。肺炎予防の為に清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の方や立位が困難で2人介助の方も、日中は出来るだけトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。	排泄チェックを行い、羞恥心に配慮しながら、出来るだけトイレで排泄出来るよう支援し、向上した方もでている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には起床時冷水や牛乳を飲んで頂いたり、また腹部マッサージを行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間に希望がある場合はその要望を尊重するようにしている。入浴を拒む方への言葉かけ、タイミングの工夫を行なっている。菖蒲湯や柚子湯以外にも入浴剤を使用し楽しんで頂けるよう支援している。	ほとんどの利用者が週2回入浴であるが、希望やタイミングに応じた入浴支援を行い、季節の菖蒲湯、ゆず湯等が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて昼夜共に休んで頂いている。夜間眠れないような時は、会話対応し安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬変更時はその都度注意点等が申し送られ情報を共有している。また、処方箋に目を通し目的・副作用を確認したり調べたりしている。症状の変化があった際は看護師にすぐ報告し必要あれば医師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の手入れ、読書、メニュー書き、食事の後片付け、米とぎ、モップ掛けなどその方に合った役割支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出かけたり、本人の希望を受けご家族と協力しながら自宅等への外出も支援していた。また季節ごとに外出を企画し皆で出かけられよう支援している。	散歩、買い物や受診を兼ねたドライブ、市内の観光地への花見、紅葉狩りなどの支援や家族との外食、外泊、墓参りなどの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理できる方には所持して頂き、買い物に行った時など買いたい物や欲しい物を買ったりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった際は電話をかけられるよう支援し、ご家族等から電話があった際もお話が出るように支援している。手紙や年賀状のやり取りができる方には継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう生活空間は毎日の清掃で清潔に努め、観葉植物や季節の花、写真や習字を飾り、毎月お客様と作ったカレンダーを飾ったりしている。	明るく、空調に配慮した共有空間であり、観葉植物、季節に応じたインテリア、利用者の共同作品や個人の書、折り紙、行事写真が飾られ、利用者はソファで寛いだりテレビを楽しんでおり、季節感、生活感が感じられる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい時は居室で過ごし、会話を楽しみたい方はテーブルについたり、テレビを見たい方をテレビ前で過ごされたりとご自分の好きなように過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自宅から植木や位牌を持ち込んで頂いたり、家族の写真や飾り、ぬいぐるみなど置いたりしご本人が居心地よく過ごせるようにしている。	プライバシーに配慮され、快適な空調になっている。ベットは本人の生活状況に配慮され、清掃、整頓にも配慮されている。個人の希望で家族写真、位牌、植木、椅子などを持ち込み、その人らしく生活出来るよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をつけることで自分の居室が分かったり、歯磨き粉や洗顔フォーム等の使用間違いがないように明記するなどし分かりやすいように工夫している。また、できることは行なって頂くよう声かけ見守りをしている。		